

# 九州産業考古学会報

創刊号 2003年6月26日発行 発行元：九州産業考古学会

## 創刊に寄せて

九州産業考古学会会長・木元富夫



**産**業考古学は、歴史上に貴重な産業遺産を研究するだけにとどまらず、特に貴重なものは保存されるように努めることも使命とされている。産業遺産の保存と活用には種々の利害や思惑が絡んでくるので、運動には広がりや厚みが必要であり、小会はもっと活動を広げ深めていかねばならない。当面の最優先の課題は、会員を増やすことによって研究会や見学会などの活動を組織的また計画的に行なうことであろう。それが産業遺産の意義を各方面に広く知らしめることになる。それと関連する学会や団体とのつながりを深めることも課題である。今般そのために事務局で協議し、情報の発信と収集を強化することにした。本会報の刊行もそうした課題に対処する具体策の一環として企画したものである。これを機縁に小会へのいっそうの御理解と御支援をお願いする次第である。

### <目次>

創刊に寄せて……………木元富夫	1	<b>【特集】</b>	
		九州産業考古学会の沿革	
<b>【報告】</b>		……………木元富夫	4
九州産業考古学会 2003 年度総会			
……………松田寛	2	<b>【お知らせ】</b>	
熊本産業遺産研究会がスタート		役員紹介……………	4
……………幸田亮一	3	今後の予定……………	4
志免産業遺産講演会		カンパのお願い……………	4
……………大石道義	3	編集後記……………	4

九州産業考古学会事務局 〒 809-0041 福岡県中間市岩瀬西町 63-17 松田寛 気付

TEL&FAX : 093-245-2995 E-mail : matupi2002@ybb.ne.jp

URL : <http://pl.lightws.com/~sangyokoko/>

九州産業考古学会2003年度総会  
松田寛（小会事務局長）

1. はじめに

2003年度総会を4月26日(土)午後1時より、「北九州市立自然史・歴史博物館」会議室において開催した。会場はJRスペースワールド駅近く、新日鉄工場跡地につき最近完成した博物館を使わせてもらうことができた。参加者は約30人、会長挨拶に引き続きまず講演会、次いで研究発表会、最後に総会の順で行なった。

2. 講演会

初めに深町純亮氏（前飯塚市歴史資料館館長）が「柳原白蓮の生涯」と題して、講演された。白蓮は歌人で、若くして筑豊の炭鉱王伊藤伝右衛門に嫁ぎ、「筑紫の女王」として歌壇や文芸界、社会活動で活躍したが、ほぼ十年にして離婚宣言を新聞紙上に発表して飯塚を去った一世の麗人である。深町氏は、白蓮の生い立ちや人柄を細かく解説され、彼女の存在や事績、またその居宅となった旧伊藤邸は、筑豊にとって文化的にも特筆すべきものであることを強調された。

次に大石道義氏（西日本短期大学助教授）が、「旧志免炭鉱跡地の保存活用を考える」と題して講演された。大石氏は、立坑櫓の位置や現状の説明の後、「産業歴史ふるさと公園構想」を提示され、櫓を中心とした具体的な保存活用方法（＝公園化）を説明された。

3. 研究発表会

①後藤恵之輔氏（長崎大学教授）が、「日本近代化遺産および戦時遺産の非接触・非破壊検査管理技術の開発」と題して発表された。サーマルカメラ（放射線温度サーモグラフィ）を使って離れた対象物の温度状態を調査する方法はユニークなもので、今後産業考古学でも大いにその利用を考え

るべきではないかと、啓発されるところがあった。

②市原猛志氏（九州大学大学院生）は「粕屋町仲原炭鉱堅坑について」報告された。この産業遺産は粕屋町のランドマークとなりうるもので、市原氏は、この一帯を回遊性のあるオープンエアミュージアム（野外博物館）とすることができることを具体的に提案された。

③田中美帆氏（福岡教育大学学生）は、山口県津和野市にある「津和野今昔館」を訪れた体験を基に、産業考古学の教育的可能性を論じられた。同館は地域の民具や日常生活品を収集した施設であるが、そうしたものを歴史教育に生かしたいという田中氏の思いは好ましいもので、今後の更なる取り組みに期待されるところである。

④松田寛（西南電機勤務）は、会場となった新日鉄工場跡地にちなんで、「北九州地区の産業遺産について」と題して、官営八幡製鐵所の歴史について発表した。

4. 総会

平島事務局長が2002年度事業報告を行なった後、会則の一部改正提案が行なわれ、いずれも了承された。会則に従って事務局役員の改選が行なわれ、会長は留任し、事務局長には新たに松田が就任した。新年度の事業計画については別項の通りである。



【写真・東田第一高炉（市指定文化財）】

## 熊本産業遺産研究会がスタート

幸田亮一（熊本学園大学教授）

2002年から03年にかけて盛り上がった月星化成熊本工場の保存運動をきっかけとして熊本産業遺産研究会が生まれた。発足会は、2003年3月23日（日）10時半から13時まで熊本市産業文化会館第2会議室で、20人の参加者を得て開かれた。

まず、産業考古学会の小山徹会長、九州産業考古学会の木元富夫会長からのお祝いのメッセージが紹介され、引き続き、「熊本の産業遺産—その可能性」というタイトルのもとに、熊本の産業遺産が観光や教育面で大きな可能性を秘めているとの基調報告を幸田が行なった。

その後、参加者の自己紹介を兼ねたフリートークに移り、鉄道・交通マニアやクラシックカー収集家、写真家、石油エンジン収集家、建築家、主婦、教員、学生など様々な参加者による発言が続いた。

できるだけ多くの人に参加して欲しいということで産業考古学会支部ではなく研究会としてスタートし、会長に松本晋一氏、事務局長に幸田が選ばれた。

発足会終了後、7人で新町界限を見学。この界限には旧第一銀行熊本支店（現ピース）や古い商家、明八橋（明治8年のアーチ石橋）など多くの遺産が残っており、互いに教えあいながら歩く楽しさを満喫。おまけに、明治2年開業の富重写真館で記念写真を撮ってもらうこともできた。

今回は、7月6日（日）に、新幹線駅の建設に伴い再開発が予定されている熊本駅ならびに周辺の鉄道関連遺産の見学を兼ねた例会を予定している。

## 志免産業遺産講演会

大石道義（西日本短期大学助教授）

福岡県粕屋郡志免町には旧海軍炭鉱跡地に立坑櫓、ボタ山等の石炭産業遺産が残存している。その保存活用を考えていくための下地づくりと啓蒙を企図して、西日本短期大学造園科大石ゼミナールは、九州産業考古学会の後援を得て、2002年12月7日（土）10時～12時、志免町生涯学習1号館で講演会を開催した。

山田大隆北海道産業考古学会会長（日本科学史学会北海道支部長）に、「福岡県民にお伝えしたいこと——イギリス・ドイツにおける産業遺産の積極的活用——」というテーマで話して頂いた。山田会長は、福岡県の教育関係者への講演会に出席するために来福されたのを機に、その合間をぬって来て頂いたもので、当日は九州産業考古学会の見学会が水巻町で行なわれるのと重なるということもあり、日程としては最善ではなかったが、それでも地元内外から50人を越える参加があつて盛況であった。

山田会長は、北海道の産業遺産の保存活用・旧産炭地活性化に尽力されるかたわら、ドイツやイギリスの先進的事例の視察研究（渡欧20数回）に努めておられ、その実地見聞に基づく説明は説得力に富むものであった。特にルール鉱工業地帯の環境的・経済的再生を目標としたI B Aエムシャーパーク計画のコンセプト、経緯、成果、その後の展開（地域アイデンティティの継承と産業遺産の再利用。産業遺産、景観、アート、住環境改善、環境に亘る有機的一括的成果とその手法。）は、志免を考える上にも示唆的であった。150枚のスライド、25枚のプリント資料を用いての視聴覚的講演は、息もつかせぬほどの迫力があつた。あとの質疑応答も活発なものとなり、時間不足が残念であった。



## 九州産業考古学会の沿革

木元富夫（九州産業大学教授）

1977年に産業考古学会が設立されるのを待っていたかのように、久留米市の香月徳男会員は朝倉重連水車群の保存運動を精力的に展開し、大きな成果をあげた。同氏は会報第4号で「九州支部を設けましょう」と呼びかけられたが、当時は福岡県7人、佐賀県1人という状況で、支部を組織するには至らなかったようである。

10年後の87年の秋に産業考古学会全国大会が福岡県飯塚市で開催されたのを契機に、九州地区でも組織的な活動を盛り上げたいという気運が福岡在住会員の間に高まった。89年に入って、飯塚市の名門企業である幸袋工作所の工場が解体されるという話が入ってきたので、この機会に有志が集まって同工場の緊急調査を実施すると同時

に、九州産業考古学会の設立総会を開催した。会長には桑原三郎・近畿大学九州工学部教授が就任した（2代目は越智廣志・西日本工業大学教授、現3代目は木元・九州産業大学教授）。

その後、定期的に研究会や見学会を開催するようになった。機関としての活動で主なものとしては、①年数回の総会、例会、見学会等の開催、②保存運動の過程での産業遺産シンポジウムの開催、③学会推薦産業遺産や学会功労者の推薦、④産業遺産保存要望書の提出、⑤産業遺産に関わる事業への協賛、⑥産業考古学会全国大会の誘致や受け入れ（これまで飯塚市、大牟田市、諫早市で開催）、等を行なってきた。九州は広く、会員は各地に散在しているため、頻繁に会合を持つのは難しいところもあるが、その割には成果を上げているのではないかと考えている。活動の詳細は学会誌『産業考古学』を御覧頂きたい。

## 役員紹介

2003～2004年度の役員を紹介します。今後ともよろしくお願い致します。

会長 木元富夫 事務局長 松田寛

事務局員 大石道義 平島勇夫 山田元樹（会計） 市原猛志（編集）

## 今後の予定

当会の今後の予定は以下のようになっています。

月・日	活動内容
7月 1日	学会公式ウェブサイト開設
8月	
9月 14日	端島（軍艦島）見学会
10月	
11月 23日	志免炭鉱産業遺産シンポジウム
12月 7日	若松産業遺産見学会・講演会

## カンパのお願い

九州産業考古学会は、活動のための資金が不足している状態です。当会の趣旨をご理解いただき、よろしければご寄付を頂ければ幸いです。

### 寄付受付口座

福岡銀行大牟田支店（店番691）  
普通 1914369  
九州産業考古学会

<編集後記> 水車を動かすとき、一番エネルギーを必要とするのはその動き始めである。物事にもそれは当てはまる。思いを形として残すことは、とても難しい。こうやって学会誌が日の目を見る事が出来たのは、これに携わり学会の発展に尽力して下さった全ての方々の思いの強さに他ならない。ここに改めて謝意を表し、次なるステップへと進んでいきたいと思う。（市原）